

主の降誕 夜半のミサ

ルカ2・1-14

2015. 12. 24

イエズス会司祭 柴田 潔

今日は、難民をキーワードにクリスマスを考えますが、まず聖書の背景を少し説明します。イエスさまの生まれた時代は、外国・ローマ帝国による支配が続いていました。戦争や飢餓、病気の苦しみ・・・暗い闇の中にいました。天におられる神様は、人間が苦しむ様子に心を痛めて、自分のひとり息子を送って、人々を救うことを決心されました。今日は、そのイエス様の誕生をお祝いしています。福音に出てくる皇帝アウグストゥスは、当時地中海全域を支配していました。英語で8月をオーガストと言いますが、アウグストゥスから来ていると言う説もあります。1年のうち1ヶ月を自分の名前で独占してしまうほどの絶大な権力を誇っていました。このアウグストゥスは、税金の頭数を調べるために全住民を移動させます。移動の最中に、宿屋ではなく、馬小屋でイエス様は生まれます。政治権力を握る皇帝と、本当に貧しく生まれるイエス様が対照的に描かれています。税金の取立てのために、移動させられた場所で生まれたので、イエス様は難民だ、とも言われています。

今年は、シリアをはじめとする難民がクローズアップされました。わたしが山口で働いていた幼稚園も、難民のためにクリスマスの募金をしてきました。難民のことを勉強しようと思って、わたしはシンポジウム「ドイツはなぜシリア難民を受け入れるのか？」に参加しました。そこでハンガリー出身の講演者がご自身の体験を分かち合ってくれました。

「1965年、ハンガリー動乱（ソ連の軍隊がハンガリーに入ってきた）のクリスマスのころ。当時、10歳だった私はハンガリーを離れることになりました。「自分は難民になる。家もなくなる、国もなくなる・・・友だちとも会えなくなる。これからどうなるの？不安でいっぱいだったとき、同じ年くらいのドイツの子どもが箱をくれました。きっと、みすばらしい格好だったので難民とわかったのでしょう。中にケーキが入っていました。自分が食べるつもりだったクリスマスケーキだったのに・・・それを譲ってくれました。これから難民になる。不安もある・・・でもいいこともある、ケーキはそう思わせてくれました。それ以来、苦しくなったとき、ケーキのことを思い出して頑張ってきました。50年経っても忘れられません。思い出すと涙が出てきます」。

山口の幼稚園にも、今の体験をお伝えしました。すると、先生たちは工夫して募金の意味を子どもたちに伝えていました。日本のお友だちと難民のお友だちの“ごはん・いえ・水・学校”の違いをわかりやすく説明していました。掲示板に写真が張ってあるので帰りにご覧ください。先生たちはこれまでに岩手県の大槌町にボランティアに行き、命の大切さを体験しています。話に説得力があるし、子どもたちも真剣に聴いています。募金は、お母さんお父さんからただお金をもらってするものではありません。毎日、何か我慢して、たとえば、「ガチャガチャを我慢したらその分を」というように目標を決めます。頑張るお子さんに勇気付けられてビールを我慢して募金してくれたお父さんもいました。幼稚園の募金箱に入れる前には、自分で考えた言葉でお祈りをします。ある女の子は「こまっているおともだちがあぶないくにからあぶなくないくにもどれますように」とお祈りしていました（難民支援協会Facebook 12月18日付で紹介されています）。幼稚園の先生が、馬小屋の説明をすると男の子がこうつぶやきました。「ボクは、病院のベッドで生まれたけど、イエス様は馬小屋のまぐさ桶の中だった。イエス様は難民の赤ちゃんだったんだね。ボクは、イエス様に募金してるんだね」。男の子は、イエス様がお生まれになる準備をずっとしてきました。

高円寺教会も、福島の方々のために募金をしてこられました。先月、福島でボランティアしたときにも、「わたしたちは難民です。原発事故の難民なんです」という言葉を聞きました。みなさんも難民に心を寄せて待降節を過ごしてきました。

実は、12月の初め、上智の神学部で卒論が一緒だった女の子が留学先のイギリスで急死したという悲しい知らせをもらいました。悲しく沈んでいみがした、子どもたちと高円寺の皆さんの優しい気持ちがわたしに勇気をくれました。自分にも何かできることがまだあるんじゃないか？ ずっと、そう考えて待降節を過ごしてきました。

2千年前に誕生した人をお祝いするのは、普通はないことです。誕生の喜びは次第に消えていきます。それなのに、クリスマスはずっと繰り返されてきました。その理由は、ドイツの子が自分のクリスマスケーキを渡してくれたように、何かを我慢して子どもたちが募金するように、優しい心が毎年湧き出てきたからだと思います。イエス様の誕生は、人に優しくしたい気持ちを湧き出させてくれます。立ち上がる勇気を与えてくれます。だから、2千年前に誕生した人、イエス様がずっとお祝いされてきました。

そして、今日、イエス様がお生まれになりました。この喜びを味わいながらミサを続けましょう。